

Laughter is the best medicine

～笑いは最善の薬～

3/7 子どもの権利条約についてお話を伺ってきました。以下は生徒の感想です。

私自身、子どもの権利条約があるということ、その内容について全く知りませんでした。「子どもにもこのような権利がある、ということを知っていなかったら権利が奪われたことにも気づかない」とお話があったように、まずは権利があるということを知っていなければなりません。子どもがなんでやねん！と思うことを気軽に発言できない環境の中で、ビンゴやすごろくなどの楽しいゲームを通して発言できるのはとても良い活動だと思いました。理想は、このような場でもなくても子どもが「こんな権利がある！」と発言できることだと思います。そのような世の中になるよう、これからもこの活動が広がれば良いなと思いました。

子どもの権利条約の名は知っていたけど内容については全く知らなかったので今回の機会に知ることかできてよかったです。

子どもが本音を出せる居場所が少ないからこうした子どもの権利条約を広めていく活動をしなくてはならないんだと思います。活動すること、委員会を作ること目標とするのではなくこの先、尼崎で、地域が子どもたちの居場所となるような所にしなくてはならないと感じました。

また、子どもたちにも「あなたたちはこんな権利を持っているんだよ。」と教えることで辛いことやしんどいことがあったときに誰かに守ってもらえるということに気づけるようになってきたら良いと思いました。ありがとうございました。

- 子どもの権利条約というものは今まで小学校
- や中学校の社会の教科書に載っていた記憶が
- ありますが、実際にどんなものなのかは知り
- ませんでした。今回内容も踏まえて思ったこ
- とは、子どもがイヤなことはイヤと言える世
- 界になっていけば良いと強く思ったことで
- す。もちろん家庭の事情などでどうしても無
- 理せざるをえないことは多いと思います。そ
- れでも子どもらしく笑顔になれるように大人
- がサポートしていくべきなのではないかと思
- います。子どもの親族だけでなく、学校の先
- 生、近所の人や地域の大人全体も含めて子ど
- もを支える仕組みを作ることで、親の負担を
- 少しでも減らすことができると思います。虐
- 待は負の連鎖、虐待をされた人が自分の子ど
- もにも虐待してしまうことが多いそうです。
- しかし、この仕組みなら周りに助けてもら
- い、多くの人の愛情をもらっているため自分
- も恩返ししようと負の連鎖を断ち切ることが
- できるのではないかと思います。さらに子ど
- もを産もうとする人が増えるのではないかと
- 私は思います。
- また、イヤなことを書き出してすごろくにす
- ることは、自分が持っている権利なのだと子
- ども自身がしっかりと学ぶことができると思
- いました。だから、このすごろくが将来的に
- 義務教育の中に1時間だけでも入れば良いの
- にと感じました。

- 今回は子どもの人権について学びました。
- 子どもの権利条約については、少し知ってい
- ました。子どもの権利条約には、生きる権
- 利、育つ権利、守られる権利、参加する権利
- の4つの権利に分けられていることや、まだ知
- らなかった詳しい内容を知ることができまし

た。子どもにも権利があります。それを知らない子どもたちが多く、いじめなどを受け、苦しんでいる子どもたちがいることなど、多くの問題があります。

こういった問題を解決するためには、私たちが今回受けたような子どもの人権について、知ることができる場を設けることだと思います。全く知らなかった子どもたちが、自分にも権利があるということを知ってもらっただけで、気が楽になったり、なにかあった時に、権利を持っているのだからと、自信を持つことができたりすると思います。実際私も、こんなにも多くの子どもの権利条約があるとは知りませんでした。18歳未満が子どもとされている中で、みんなが権利を持っていて、周りに守られています。一人ひとりが権利を持っているということを知り、子どもだけでなく、大人も知ってほしいと思いました。

こういった子どもの人権について知る機会が広がっていくことを願っています。

子どもの権利条約の講演に参加して子どもに42の権利があるだと知ることができました。子どもの権利条約は社会科で習っていましたが、どのようなものなのか、どのように活動しているのか分からなかったのですが、今回で少し知ることができたのですごく良い経験になったと思います。

講義してくれた方もおっしゃっていましたが、子どもにどのような権利があるのか知らないと、権利がなくなったときに気づけないということは本当にそうだなと思いました。アバターが自分として生きていく世界になっていっていると先生がおっしゃってました。これからはさまざまな問題が出てきて、そのたびにどのようなことをするべきなのか考えて私も行動していこうと思いました。

今回、このワークショップに参加して、今までよく知らなかった子どもの権利条約について深く勉強できました。条約で語られていることはどれも大切なことだと思いました。しかし、それをきちんと政策に反映させないと意味がないし、反映させていても虐待や飢餓は減らない。だから第三者の目線から判定するオンブズマンはとても大事だと思いました。そのオンブズマンが尼崎市にできるというのは、とても良いことだと思います。もっともっと、理不尽なことは理不尽だと言えるような人になりたいです。

ワークショップに参加して、私が知ってる以上に子どもが守られていないことがわかりました。

それに加えて、その子ども達を守る制度や対策を考えるのが遅いということにも気づきました。

しかし、少しずつでも子どもの権利条約が広がり重要視されたり、法的拘束力が必要な所が改善されたりしたら、守られる子どもも増えると思うので、これからの看護の活動などの中で発信していければ良いと思いました。

今回、子どもの権利条約について、地域の人と学びました。授業で習うよりもゲーム形式で行う方が小学生にも分かりやすいことがわかりました。この活動が尼崎だけでなく他の市外や県外にも広がれば良いと思いました。